

最上建発第43120号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

山形県最上郡最上町長 高橋 重美



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

仲秋の候、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、標記の意見・提案の提出をいたしますので、宜しく願い申し上げます。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山形県最上町

◆舗装復旧の辞補助制度の創設

町道舗装が著しく損傷(亀甲)し、早期復旧をしなければならない状況であるが、厳しい財政状況のなかでは、先送りせざるおえない。どこの市町村においても、単独予算での復旧は難しいものと思われる。国の財政的支援が必要である。

◆道路整備の目安となる新たな整備指標の提案

「真に必要な道路」の判断基準として、国で議論されている費用便益分析(B/C)の算定の際に次のような事情及び高速道路効果のうち貨幣換算が可能と考える項目について、便益算定の際に追加されるよう提案する。

- ① 工事における高速性の確保
 - ② 災害時にリダンダンシーの確保
 - ③ 高速医療へのアクセス性の向上
 - ④ 環境への負荷軽減
- また、引き続き検討して欲しい項目
- ⑤ 広域的な観光ルートの形成
 - ⑥ 農林水産業の販路拡大
 - ⑦ 産業への寄与
 - ⑧ 広域交流・連携の促進
 - ⑨ 地域格差の解消

道路整備には優先順位をつけざるおえないが、これまでの費用対便益に基づく判断では交通量の少ない地方の道路は整備が遅れたり或いは行われないことになる。経済性以外の波及効果などの外部効果(⑤～⑨)を取り入れる制度に変えなければ 都市部と地方の格差が広がるばかりである。B/Cだけでは図れないものが多い。

◆凍上災指針の改正

道路土木排水工指針において、10年間の凍結指数を算定し、その最大値を超える低温により発生した災害となり、寒い地域ではなく気温差であるため、暖かくても気温差があれば災害対象になる。平成17年度の道路凍上災害では、最上町は寒冷地であるが、温度差がたりなく対象外となった。山形市が対象になり、最上町のように寒い地域が対象にならないのは納得しがたい。何らかの制度改正が必要と考える。

○現状

◆高速交通網の整備

都市部と地方の格差が大きい。

◆国道47号道路整備

日本海経済圏と太平洋経済圏を結ぶウエストライン、産業、経済観光、文化などに重要な役割を担っている道路、毎日 220 人が大崎市、仙台市等へ就業で利用している。迂回路がない。

①山形・宮城県境部の改良

七曲といわれるほど曲がりくねって、勾配のきつい箇所がある

②石巻・新庄道路の整備

新庄から石巻間を結ぶ地域高規格道路

◆県境部の県道改良

曲がりくねって、急峻で、幅員が狭い

○課題

地域の計画が「真に必要な道路整備」と理解されない。
地方の道路は交通量が少ないことで費用対便益が小さい。

①整備箇所が宮城県であり、要望が直接できない。

迂回路がないので、事故が発生すると全面通行止めになる。

②候補路線から計画路線へ昇格

地形が急峻で改良が難しい。未整備であるので交通量が少ない。

②－2 地域の目指すべき将来像

山形県最上町

少子高齢化や過疎化減少の著しい地方部にあっても、産業や文化を支える道路、緊急輸送路としての道路、日常の生活水準向上させる道路網の整備は不可欠である。

- ① 地域経済を支える道路整備(トヨタ関連など)
- ② 広域観光・交流ルートの形成
- ③ 高速交通網の整備

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

山形県最上町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	100 万人交流を支える道路の整備	世代を超えて集い、住み続ける元気な町(中心部)をつくる。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	災害に強い通行止めにならない道路 緊急輸送道路の整備	通勤・通学路の確保と安定した物流の確保 非常事態に対応した道路の確保 輸送時間の短縮 安全安心の確保	
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成		中心市街地の衰退の防止 安全安心の確保	